認定NPO法人四つ葉のクローバー（滋賀県守山市）

「社会ニーズに応えるための地域交流型シェアハウスの内装改修」

児童養護施設等を退所した若者たちの未来を地域で応援するために、施設等を退所した若者や社会的養護の必要な若者たちが安心・安全・安価で暮らせるシェアハウスを改修し、入居定員を増やします。また、これまで地域と交流する機会を積極的に設けてきたことが困難を抱える若者への理解につながってきたことから、今後は若者たちの未来を応援するサポーターを増やしていき、若者たちが地域社会に溶け込みやすい環境を作ります。

団体設立経緯

1 人の主婦が、児童養護施設退所者や社会的養護の必要な若者たちの力になりたいという思いから、平成 25 年に民間で立ち上げた団体です。安価で住宅を提供しながら就労・就学支援をし、社会に貢献できる人材へと自立していくことを目標にしています。平成 28 年 1 月より認定ＮＰＯ法人となり、同年 5 月に 3 年間の実績が評価され、自立援助ホーム「シェアハウス・夢コート」として滋賀県に認可していただきました。

設立年月	2013年4月
メンバー数	10人
代表者名	杉山　真智子（すぎやま　まちこ）
連絡先	〒524-0022滋賀県守山市守山2丁目15-25
電話	077-584-5688
Fax	077-584-5688
メールアドレス	yotuba2013@gaea.ocn.ne.jp
ホームページ	http://yotubanokuroba2013.com/ http://m.facebook.com/531427263576592

＜団体のミッション＞
私たち四つ葉のクローバーは児童養護施設退所者や社会的養護の必要な若者たちが自立し社会に巣立っていくことを目的として、経済的に困窮し社会的養護を必要とする若者たちに住宅・生活・就労支援を行っています。

活動概要と活動対象範囲

滋賀県の児童養護施設退所者や社会的養護の必要な若者たちを対象に自立支援をしています。

①自立援助ホームでの生活・就労・教育支援
②アフターケア事業（卒業生の定期的な面接・居場所作り・企業との就労連携等）
③ NPO の収益事業および若者の就労支援のための餃子屋「竹の子」運営
④サテライトハウス事業（社会的養護の必要な若者への住居提供およびアフターケア）
⑤地域社会への啓発活動（地域との交流イベント企画・講演・取材対応・若者たちの取材協力・大学との連携・自立研究会の開催・SNS での情報発信等）

活動拠点である夢コートビル

活動に至った理由や背景

理事長が児童養護施設にボランティアに通っていた頃、年中児に「お泊まりに行きたい」とせがまれ、外泊の受け入れに必要な里親資格を取り、お泊まりに招きました。一緒にご飯を食べ、お風呂に入るかつどう…当たり前のことに目を輝かせました。ある夜、布団に入り幼稚園であった事を沢山話してくれていた時、急に静かになり、見ると声を殺して泣いていました。「なんでおばちゃんがボクを産んでくれへんかったんや!」理事長のお腹をバンバン叩いて「ここから生まれたかった。おばちゃんの子どもにして!」と泣きじゃくる年中児を抱っこして二人で泣き「18 歳になって施設を出たら、おばちゃんが大きなお家を用意して待ってるから!」と約束して作ったのがシェアハウスです。

活動内容と成果

年間活動概要

4 月～ 5 月：内装改修のための工事
8 月 19 日：真夜中会議＆バーベキュー大会
9 月 24 日：真夜中会議＆交流会
10 月 3 日：新入居者歓迎会
10 月 28 日：真夜中会議・交流会
11 月 24・25 日：「四つ葉カフェ」お披露目会
12 月 5 日：アフターケアにかかる研修会・交流会
12 月 23 日：門松作り
12 月 23 日：クリスマス会
12 月 31 日：年越し忘年会
2 月 17 日：ドリームライブ 2018 懇親会・交流会

◆社会的養護が必要な若者たちの現状

一般的に子どもは家庭の中で親などの保護者から経済、精神、教育面等あらゆる場面での支えを受けながら成長し社会へと巣立っていきますが、社会的養護が必要な子どもたちのほとんどが家庭の中での支えがない上に虐待のトラウマを抱え、幼い頃から学習も十分にできていません。けれども一般家庭で育った子どもたちよりも早く社会に出て自立・自活を求められているのが現状です。

施設等で措置された子どもは、入所中は順調に自立に向けて準備ができているように見えていても、実際に社会に巣立った後に生活が破綻しているケースが多々あります。

また、一時保護をされても措置対象とならず家庭に戻された子どもや、家庭に課題がありながら、公的支援に繋がらなかった子どもは、不適切な環境の中で成長したため、仕事につけず過酷な生活を送り、助けを求めたくてもどこに求めればいいのかわからず、より自立が困難で生活が破綻しているケースが多い現状があります。

社会的養護が必要な若者たちは長年の虐待や周囲の大人への不信感のために情緒的・精神的に不安定さを抱え、健全な人間関係を築くのが難しいことが多いため、日常生活の小さな躓きが退学や離職、金銭トラブルなどに繋がり、家族の後ろ盾もなく、虐待のトラウマを抱えた低学歴の若者たちが自らの力だけで生きていく困難は想像を絶するものがあります。

◆受け入れ枠拡大のための改修工事

平成 25 年設立からシェアハウス夢コートでの自立支援に尽力してきましたが、平成 28 年に当法人では、公的機関からの受入れ要請を満員が理由で 7 件お断りしなければならない事態が起こり、早急の課題として受け入れ枠の拡大と支援体制の強化がありました。そして、平成 29 年 4 月、受け入れ枠拡大のため、当法人ビル 2 階を居室にするための改修工事を行うことにしました。

成果としては、自立援助ホームの定員拡大ができ、支援できる人数が増えました。また、改修工事を機に女性専用のフロアを設けることができ、より安心安全な住宅提供が可能になりました。

さらに、定員拡大になったことで、自立援助ホームの規定により、職員数を現状 3 人から 4 人に増やすことが可能となり、臨床心理士の雇用に繋がり、入居者によりきめ細かな支援ができるようになりました。その結果、大人を信用しようとしない若者たち

工事中の様子

改修後の居室

が安心・安全な居場所を確保し、周りの大人に「頼ること」が出来るようになり、信頼関係を徐々に築いていくことができています。

◆真夜中会議（月 1 回開催）・交流会・バーベキュー大会

「真夜中会議」のネーミングのいきさつは、ある問題が発生した時にそれを話し合うために若者のアルバイトが終わる時間を待って真夜中に始めたことからです。平成 29 年度からは毎月 1 回開催しています。主な参加者は、シェアハウス入居者、シェアハウス卒業生とスタッフです。また真夜中会議の際には地域の方々の参加も理解と交流を深めるために重要と考え、積極的に受け入れています。

まずは参加者たちで一緒に食卓を囲み交流し、食事後は全員で一斉に片付けます。

そしてど真剣に「真夜中会議」が始まります。真夜中会議は共同生活で起こる問題（騒音、電気代の減らし方工夫、宿直が必要か否か、朝起きていない人は起こした方がいいのか等）を若者たち中心に意見を出し合い、解決の糸口を見つけていきます。地域の方が参加してくださっている時は若者たちの忌憚のない意見のやりとりを見守りながら必要に応じて意見もいただいています。

バーベキュー大会の様子

真夜中会議の様子

真夜中会議は大人たちに見守られている安心感の中で、自分の意見は受け入れてもらえないかもしれないという恐れを持つことなく発言できる機会にもなっています。共同生活で起こる問題を自分たちで解決していることは自信と大人への信頼感を育むことができ、生活基盤の安定へと繋がっています。

・8月19日真夜中会議＆バーベキュー大会

YANO BROTH E RS の矢野デイビッドさん（クローバードリームライブ 2017 のゲスト）と ACHA プロジェクト（施設出身者たちに振袖の記念写真をプレゼントする活動）の山本まさこさんが参加してくださいました。お二人とも児童養護施設出身をものともせず頑張って生きている大先輩です。真夜中会議の議題は「宿直を置くか否か」について。お二人の話、歌に引き込まれ、一人ひとりが建前抜きの本音を言葉にしてくれる時間となりました。

・9月24日・10月3日・10月28日真夜中会議＆交流会

地域住民の方々が参加してくださる会議となりました。真夜中会議の議題は「住人同士の騒音」多大なご寄付をくださった方からのメッセージを受けての「旅をすること」について。参加くださった地域の方々のアドバイスも若者たちに沢山の視点をもたせてくれる機会となりました。

◆新たな取り組み～「四つ葉 cafe」内装ＤＩＹ・お披露目会～

児童養護施設出身者支援を始めてから5年ですが、公的支援に繋がらず生活に困窮している若者の多さと支援の必要性をひしひしと感じています。

そのための取り組みとして『四つ葉 cafe』をオープンさせました。この機会を利用し、これまで餃子屋「竹の子」のイートインスペースだった場所を自分たちでリニューアルすることからスタートしました。ここでの工夫点は、リニューアルのＤＩＹからお披露目会の餃子作りまでを地域の専門家に協力とご指導をいただき、若者たちの就労体験の機会にしたことです。自分たちで作り上げ、メニューの食事をお客様に提供するまでを体験することで、いろいろな職種があることを知る機会とより具体的な就労イメージがつけられる機会となりました。

四つ葉カフェ DIY 就労体験

四つ葉カフェの完成

（左）四つ葉カフェお披露目会、（右）四葉カフェ披露目会時の就労体験

◆クリスマス会・門松作り

ツリーの飾り付けとパーティ手料理の「クリスマス会準備チーム」は、職員と一緒に準備を進めました。若者だけに任せることも大事ですが、職員との共同作業でコミュニケーションをとりながら思い出を増やしていくことを大切にしています。

門松を作る「匠の技を伝授チーム」は、地域の人の協力のもと竹林の竹を切り出すことから始まります。山で松と千両を頂戴し、匠が技と門松の意味を若者に引き継いでくださっています。

◆沢山の交流会の機会がもたらしてくれる効果

当法人は積極的に地域の方々との交流の機会を持つようにしています。それが、若者たちの現状を知り、若者たちを応援するサポーターを増やすことに繋がっていくからです。そして交流会をする時の工夫点としては、共同作業や食をともにする時間を必ず取り入れているということです。交流の際には大人も若者も緊張感があります。けれども、共同作業や食はコミュニケーションを自然ととりやすくしてくれる力があり、お互いが歩み寄れる絶好の機会となってい

クリスマス会の準備の様子

門松作りの様子

ます。安心感の中で一緒に時間を過ごすことで大人を信用しきれない若者たちにとっても、自分たちを応援してくれている地域の方々がいることを肌で感じ、この先社会に出て行っても地域には自分たちを見守り応援してくれる人がたくさんいるという安心感に繋がっています。

課題と解決方策

活動テーマに関する課題は助成金を頂戴できたことにより達成することができました。また地域交流型として積極的に交流の機会を持つことで少しずつ広がりをみせる地域への啓発活動の成果を実感しております。解決できなかった事項としましては、公的支援に繋がらず生活に困窮している若者支援です。当法人は県からの措置費で運営しているため措置者以外の支援は認められていません。自立援助ホームで過ごした後措置が解除される卒業生に関しても関係性がすぐに切れるわけではありません。精神的な安堵感・地域の応援・学歴や就業継続が若者たちの自信になるため、若者が必要なしと断るまで見守り寄り添う支援も必要です。

これらのことから、身近に気軽に相談できる「人」と「居場所」、「資金」の確保が必要であることがわかります。

そのための取り組みとして『四つ葉 cafe』をオープンしました。生活相談・支援、就労相談・支援、居場所支援（無料夕食会）、学習支援を実施します。今後は『四つ葉 cafe』を一次的な受け皿として機能させていくことで早期発見・介入を目指します。

今後の予定

平成 30 年 4 月より滋賀県から「退所児童等アフターケア事業の生活支援部門」を受託する運びとなりました。今後は当法人が「滋賀県社旗的養護自立支援事業」の拠点となることを目指し、『四つ葉 cafe』の実績を作り、滋賀県の施設退所児の生活相談支援員（平成 30 年当法人が請け負う予定）に加えて就労相談支援員受託できるよう、問題提起・問題解決型ネットワーク組織を構築し公的支援に繋がらない人たちの支援に力を入れていく所存です。